

学修成果指標（動物分野 — 認定動物看護師職種）

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能				責任と自律性		
			汎用的な技能	職務上の技能			自律性と責任感	倫理観とプロ意識	
				専門実践技能	対人技能	分析技能			管理・指導技能
8	・博士（生物学） ・動物看護師長 ・チームマネジメントと一定水準以上のジェネラルな能力開発 ・専門学校(2)卒後15～20年経過	☐ 職能団体・学術団体等の活動に対する協力、社会的貢献	☐ 経営マネジメントの技能 ☐ 業界発展に寄与するための技能	☐ 獣医療動向、社会ニーズを踏まえた院内・組織運営 ☐ 専門実践技能の能力開発	☐ 各研修会等における座長	☐ 短期・中長期計画立案・運営	☐ 専門領域の実践・指導力の向上	☐ 業界の目標達成のに向けた主体的行動 ☐ 業界におけるリーダーシップ	☐ 関連業界のビジョン確立
7	・動物看護主任クラス ・自立して臨床実践ができる ・チーム獣医療における中核人材 ・専門学校(2)卒後10～15年経過	☐ 獣医療最新動向 ☐ 感染予防管理 ☐ 防災管理 ☐ 他職能団体・学術団体の活動に対する理解	☐ 獣医療安全管理技能 ☐ 院内外での研修会における講師や助手をつとめる技能 ☐ 学会等における研究成果発表（効果的プレゼンテーション）の技能	☐ 動物看護の実践モデル ☐ 獣医師との連携による動物看護の質向上、専門性向上活動	☐ 対象者およびその家族との信頼関係の構築 ☐ 院内スタッフのコミュニケーション能力育成の醸成 ☐ 地域関係者、学界関係者との積極的交流 ☐ 組織的な研究活動の推進	☐ 短期・中長期計画の理解 ☐ 院内チームの教育企画運営 ☐ 院外組織の業務改善	☐ OJTを通じた臨床実習指導 ☐ 学習・研究成果の伝達と活用 ☐ スタッフの研究能力向上支援	☐ 社会情勢の変化に対する関心 ☐ 所属組織の目標達成に向けた主体的行動 ☐ 院内・チームでのリーダーシップ ☐ 自己のキャリアアンカーの認識	☐ 院内・チームのビジョン ☐ 倫理的および獣医療安全上の諸問題の対応 ☐ トラブルに関する道徳的、倫理的見解をもった対応 ☐ 倫理的完成（後輩の模範）
6	・専門(2)卒後5～10年経過 ・チームの一員として臨床実践ができる	☐ 対象動物のQOL ☐ 重篤化回避の方法 ☐ 回復支援のりハ看護方法	☐ 臨床現場において研究的視点を持つために必要な技能 ☐ 研究のプロセスを進めるための技能 ☐ 学会等で研究発表を行うための技能 ☐ 職能団体の社会的意義を理解した活動技能 ☐ 院内における諸課題の把握・解決・共有技能 ☐ 種々の報告書作成技能 ☐ 社会との連携や職能団体の活動に参加するための技能 ☐ 社会人としての基礎力技能	☐ QOL向上を目指した動物看護 ☐ 安全な動物看護 ☐ 動物看護の実践介入・評価 ☐ 急変時対応	☐ 退院支援・退院後支援に関する飼主への指導・助言 ☐ 院内における人間関係の認識 ☐ 多職種との協業・連携や異業種の方とのコミュニケーション	☐ アセスメントや看護計画立案の実施と指導	☐ 後輩や実習生に対する支援 ☐ 院内学習計画の立案 ☐ 院内資源（人・物・予算・情報）の有効活用を目指した調整	☐ 動物看護師間のリーダーシップ ☐ 社会人また獣医療人としての自覚 ☐ 組織の一員としての責任感 ☐ ジョブアンカー	☐ 「動物看護職の倫理綱領」への配慮 ☐ 倫理的完成を高める中で、対象者への共感的理解と対応
5	・専門学校卒 ・認定動物看護師資格合格レベル	☐ 疾患種類、対象動物の性質 ☐ 飼い主の権利 ☐ 獣医師の診断結果と看護における問題点に対する理解 ☐ 院外連携 ☐ 臨床における疑問・不確実な知識・技術の追求と研鑽	☐ 成果のとりまとめ技能 ☐ 研究の基礎知識を蓄積する技能 ☐ 文献活動、研究発表のための技能	☐ 動物看護に関する基本的な活動の記録 ☐ 基準・手順に沿った安全な動物看護 ☐ 安全管理・感染予防・防災対策	☐ インフォームドコンセント ☐ 自分の考えを他者に伝える技能 ☐ 対象者や他人の意見・考えの尊重 ☐ 報告・連絡・相談の技能	☐ 日々の臨床事例の振り返り、課題の明確化 ☐ 実症例の動物看護過程の展開と活用	☐ 組織の理念・方針の理解 ☐ 組織メンバーの役割を理解した行動 ☐ 臨床実習の指導 ☐ プレゼンテーションの応用技能	☐ ボランティア活動の指導 ☐ 実務型動物看護総合実習における自律性と責任感	☐ 「動物看護職の倫理綱領」の遵守 ☐ 個人の尊厳やプライバシーへの配慮 ☐ 動物福祉への配慮 ☐ 守秘義務への理解 ☐ 動物看護倫理
4	・愛玩動物飼養管理士2級、1級 ・動物看護師に対する基本的な知見を有している ・基礎動物看護学を修得している ・専門学校(2年修学)在学 ☐ 基礎動物看護学 ☐ 応用動物看護学 ☐ 臨床動物看護学 ☐ 各実習 ☐ 動物看護総合実習	☐ 動物形態機能 ☐ 動物医療関連法規 ☐ 公衆衛生 ☐ 動物病理 ☐ 動物臨床検査 ☐ 動物臨床栄養 ☐ 伴侶動物 ☐ 動物看護学概論 ☐ 動物感染症 ☐ 動物薬理 ☐ 動物飼育（動物内科看護） ☐ 動物外科 ☐ 動物繁殖 ☐ 動物福祉 ☐ 動物行動 ☐ 人間動物関係 ☐ 産業動物・実験動物・野生動物 ☐ ターミナルケア ☐ 安楽死	☐ ITという言葉の認知 ☐ 会計学の基礎技能 ☐ 基本的な情報収集・分析技能 ☐ 基本的な情報発信技能 ☐ 語学力（英語など）	☐ 動物形態機能学実習技能 ☐ 顕微鏡操作 ☐ 動物臨床検査実習技能 ☐ 動物内科看護実習技能 ☐ 動物外科看護実習技能 ☐ 動物の臨床看護に必要な基本的知識に基づいた技能 ☐ 機能障害を持つ動物に対する看護技能、評価・介入方法の技能 ☐ 術前・後管理技能 ☐ グルーミング技能 ☐ トレーニング技能 ☐ バイタルチェック	☐ グリーフケア技能 ☐ 社会人としての基礎的なコミュニケーション技能 ☐ 接遇とホスピタリティの技能 ☐ クライアントエデュケーション ☐ 院内基本コミュニケーション	☐ QOLの理解に基づく分析技能 ☐ 観察技能 ☐ 情報の記録技能 ☐ 動物看護過程の展開技能 ☐ 動物看護記録技能	☐ プレゼンテーションの初歩的技能 ☐ 研究発表の基本的技能	☐ 体験型動物看護総合実習における自律性と責任感 ☐ ボランティア活動体験 ☐ 社会人としての義務の認識 ☐ 成人としての義務の認識 ☐ 情報収集方法に関する基本的認識 ☐ 他者との交話方法に関する基本的認識 ☐ チーム獣医療に対する認識	☐ 「動物看護職の倫理綱領」に対する認識 ☐ アニマルウェルフェアに対する認識 ☐ 獣医療倫理に対する認識 ☐ 「地球は一つ・ワンヘルスに関わる福岡宣言」に対する認識